

# HFHJ Newsletter

ハビタット・ジャパン ニュースレター

第18号 2010年7月発行

## 日産プロジェクト、始動！@インド/チェンナイ郊外

日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区)は、ハビタット・フォー・ヒューマニティ(以下、ハビタット)のインド(チェンナイ市中心部から南西に約20km, Mangadu in the state of Tamil Nadu)における75軒の住居建築プロジェクトへの支援(75,000米ドル相当)を決定。2010年4月24日、インド日産CEO徳山公信氏(写真左)、現地政府関係者(Government of Tami Nadu)、現地住民を迎えて、起工式を行いました。本プロジェクトは、州政府、現地NGO Woman Education and Economic Development Society (WEEDS)との協力の下、社会的、経済的、また教育的に不利な立場にある75家族、375名(その多くは日雇い労働者)の生活の向上を目的に、来年3月の完了(一軒あたりの住居面積=約23㎡)を目指します。(事務局)



### インドの住環境と住宅

インドには約1億8,000万軒の住居が存在し、その60%以上が粗悪な土、葦などの草木、竹といった建材を使用した住居で、多くの人々はまだまだ十分な住環境をもてない状況にある。都市部では、水路、ガレージ、電車・バスのプラットホームや路肩といった場所にあるスラムに、一つ屋根の下、大人数がすし詰め状態での生活を余儀なくされている。最貧困層に至っては、野宿する家族も数多く存在する。2001年の統計調査によると、約195万人のホームレスが確認され、地方では1,410万軒、都市部では1,060万軒の住居が不足。毎年250万軒の不足が新たに発生している計算になるという。

このように、貧困住居問題はインド社会の大きな課題になっており、解決に向けたインド政府による支援計画が各

地で進められている。その中には、カースト制度や塩田労働者のような季節労働によって社会的不利な立場にある住民グループを対象とした住宅政策も存在する。しかし、人口増加や資金不足による計画実施の遅れにより、年々、そのニーズは増加傾向にある。

### 求められる事業協力・連携

ハビタットはインドにおける活動を始めて以来、これまで26年間に33,000軒以上の住居支援を行ってきたが、今日、これらの支援活動をより効果的に実施するため、他NGO・行政・企業との協力・連携が不可欠な要素と捉えられている。この現状において、今回の日産自動車とのプロジェクト協力は、非常に大きな意味を持つと共に、現地での大きな期待となっている。

インド日産CEO徳山氏は次の通りメッ

セージを寄せている。「世界中で行う企業活動を通じて、各地域の社会発展に貢献することは私たちのもう一つの使命だと考えています。そのためにも、社会の持続的発展を念頭に企業活動の追求を目指しており、今回の支援を通じて、75家族の健全な生活の確保、そして社会に変化をもたらすことが出来ることを大変光栄に思います。」

プロジェクトは、6月末現在、9軒目の建築作業が取り進められている。※詳しくはホームページをご覧ください。



## ハイチ支援<続報>：シェルター建築が本格化

大地震から半年が経過したハイチでは、高まり続ける住居ニーズの中、ハビタットによる支援活動が続いています。3月末より実施していたシェ

ルター(簡易住居)のテスト建築を5月に終え、震災前から支援活動を行っていたキャバレ市(首都ポルトープランスから北に約30km)と新たな建築サイトとして選ばれたレオガン市(首都から西に約40km)において、シェルター建築を開始しました。<第3面に続く>



中田宏・前横浜市長と未来を語る！（6月6日）



地方分権改革を牽引する若き指導者であり、昨年8月の横浜市長退任以来、その動向に日本中の注目を集めている中田宏氏。今回、その中田氏とハビタット・ジャパンの活動に参加する全国の学生1,500名の代表7人が、若者による国際協力参加と日本の将来について熱い議論を交わしました！（事務局・山本真太郎）

がその仕組みの一端を担っている意義について触れた。

GVは途上国のため、そして日本の未来のため

第二部では、「支援経験が若者そして日本の未来に与える意義」について議論を行った。今の日本社会が抱える問題点として、「豊かさの中に溺れがち」、「うわべの付き合いが多い」、「夢がない」と回答。GVで現場を訪れると、「自分が普段どれだけ恵まれた環境にいるのか」、そして「私個人に何ができ、何ができないか」を理解し、「仲間やチームワークの大切さ」そして「自分自身にもっと向き合っていかなければならない」ことを学ぶことができると述べた。

中田氏は、「今の日本を見ると、たくましい日本人が少なくなった」と指摘した上で、日本の将来を担う若者の成長を促す点で「GVのような活動が持つ意義は大きい」と語った。そして、かつて、マザー・テレサが「愛」の反対語として「無関心」を挙げたことに触れながら、日本が活力を取り戻し、よりよい未来を築いていく一環として、「まずはGVのような活動について、もっと多くの人が関心を持つことが必要だ」と述べた。

6月6日、JICA地球ひろば(渋谷区広尾)において、「中田宏・前横浜市長 × ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン～草の根の国際協力と若者が紡ぐ日本の未来」と題し、パネルディスカッションを開催。当日、社会人に加え、ハビタット・ジャパンの学生支部メンバーとそのOB/OG、またマスコミ関係者など100名近くが詰め掛けた。

草の根の現場経験でしか得られない価値がある

2部構成で行われたディスカッションの第一部では、「草の根の国際協力を通じて何を学ぶことができるか」をテーマに議論を展開。学生パネリストらは、自身の海外住居建築活動(GV)での経験を振り返りながら、「たった2週間程度のことだったのに、支援した家族と1年後に再会すると、涙があふれてきた」、「チーム一丸で汗を流して1つの希望を建てたからこそ得られる成長がある」、「途上国の人々が単に経済的に豊かになることが大切なのではない」と述べた。

中田氏は、「ハビタットの活動は、貧しい人々の自立を支援するプログラムだが、参加する人々もまた自立できるのが面白い」と語る一方で、「日本国内にはまだ、日本人が持つ善意を集約し具現化する仕組みがない」と、ハビタットのような支援の形



ハビびと

Kristi Hemmerさん アメリカンスクール イン ジャパン 教師

KEEP BUILDING！（築き続けよう！）  
こう話すのはクリスティ・ヘマーさん、彼女の座右の銘だ。家を建てるだけでなく、希望や人との絆を築くことも意味する。

来日して3年。アメリカンスクールの教師として多忙な毎日を送っている。ハビタットの活動に参加したのは10年前。ニュージーランドでの海外住居建築活動(GV)をはじめ、大津波で被災したタイや母国アメリカを襲ったハリケーン・カトリナの被災地で復興支援活動にも参加した。今は、生徒を引率してGVに参加する他、ハビタット・ジャパンが開催する

「ハビびと集会」にボランティアとして関わり、積極的にその運営を支えている。

五人兄弟の長女として生まれ、昔から人助けすることが好きだった。学生時代はチューター(低学年の指導員)を担い、そして、教師の道を歩んだ。「考える前にまず行動しちゃおう！」と話す彼女の姿に天性のアクティブさを感じる。

ハビタットの活動は全ての人に「チャンス」を与えると語る。家を建てることで、現地の人々は貧困のサイクルを断ち切るきっかけを見つけ、支援者は日常では味わえない発見や多様な価値観に触れることができる。「何も考えず、ただひたすら汗を流した後に変化が目に見える」

そうハビタットの魅力を生徒に語るように、教えてくれた。

そんな日本での生活にももうすぐピリオドを打つ。行動派の彼女らしく、2年かけて南米を中心に世界を巡る旅に出る。「もちろんこれからも行く先々でハビタットの活動に参加していくつもり！」彼女の今後の「KEEP BUILDING」に期待したい。(青山学院大学CC・桑田万優子、狩野恋那、西良一)



家づくり・まちづくり、「里山長屋暮らし～藤野プロジェクト」

**長**屋は、古来から日本人が大切にしてきた人との輪を表す住居スタイル。最近、都市部でも若者のシェアハウス利用が注目され、「共に生きる」ということが時代と共に見直されてきています。「里山長屋暮らし～藤野プロジェクト」は、そんな現代に、「持続可能な暮らし」をコンセプトとして、自然や伝統、地域性にこだわり、長屋づくりを行う新しいプロジェクトです。

ハビタット・ジャパンが長屋づくり支援を初めてから3ヶ月。これまでに、大人から小学生まで世代を超えた300人以上のボランティアの皆さんが藤野町を訪問、ホームオーナーとなる4世帯の家族

日本の伝統香る長屋建築。今、神奈川県相模原市藤野町では、自然あふれる里山で「持続可能な暮らし」を目指す4世帯が、長屋生活をスタートしようとしています。ハビタット・ジャパンでは、家づくり・まちづくりを通じて「家の大切さ」や「日本の伝統建築構法」を身近に感じてもらうべく長屋建築支援活動を実施しています。（明治学院大学CC・高田夏美、東海大学CC・永井恵理香、青山学院大学CClub・柳生大志）

と一緒に建築作業を行ってきました。ボランティアの方々は、日本の古き良き建築手法を学びながら、加工した竹を格子状に組み、縄で固定する「竹小舞（たけこまい）」と呼ばれる壁の土台作りや、発酵させた土を竹小舞に塗りつける「土壁作り」に携わっています。

ハビタット・ジャパンでは、この支援活動を通して、「家の大切さ」や「日本の家屋・伝統建築のすばらしさ」を身近に感

じてもらい、そしてまた、地元・藤野町の方々とボランティアの皆さんが交流し、人と人との新たなつながりを広げるきっかけを作りたいと考えています。

参加者からは、「失われつつある伝統的な建築手法を学び、体験できた」、「普段の生活では得られない人とのつながりが持てた」、「新たな出会いを通じて新たな考え方にもめぐり合えた」など、様々な声が寄せられています。



誰でも気軽に参加できる藤野プロジェクトは、7月末までボランティア募集を予定。参加をご希望される方は、ハビタット・ジャパンのホームページ、「新着情報」より詳細をご確認下さい。皆さんのご参加をお待ちしています♪

ハイチ支援：7,000軒の希望に向けて

**現**在、女性を世帯主とする家族や身寄りがなく、また生計手段を失った被災者への支援を優先的に行っています。また、今後も地震再発の可能性のある状況で、地盤の脆弱な土地における建築は賢明ではないことから、ハビタットが選定した建築サイトへの移住（一時的なものを含む）を勧め、移住を希望した人々への支援を優先的に行っています。今後、ハイチ支援全体で7,000世帯に対する住居支援を予定、ハイチの一日も早い復興へ向け尽力しています。

日本の伝統的な建築技術も活用

このシェルターには、日本の伝統技術である「石場建て」を採用しています(写真下)。石場建ては、石などの独立基礎の上に柱を乗せ、地面と建物とを固定しないことで作られる「遊び」部分により、地震の衝撃を拡散する構法。低コストで耐震性を強化する有効な手段です。（事務局・山本真太郎）



◆◆◆義援金報告◆◆◆

2010年6月末現在、486,511円の義援金が寄せられました。皆さまの温かいご支援、誠にありがとうございました。引き続き受け付けを行っておりますので、ご支援よろしくお願い致します。

切磋琢磨から生まれた新たな絆

～関東・関西JCC 学生合宿～

Campus Chapter/Campus Clubの集まりとしてハビタットを支えるJCC(Japan Campus Chapter)は、関東・関西毎に年2回合同合宿を行っています。今回、関東6大学が6月19-20日、「足柄ふれあいの村」に集結。活動報告会では、各団体が各国で行った建築作業に様々な特色が表れ、新たな世界を知る絶好の機会となりました！また、野外炊飯を通じて、大学間の壁を越えた交流、絆を築きました。一方、関西では、6月26-27日に「奈良ユースホステル」で開催。関東のCCや九州唯一のCClubである HABITAT APU(立命館アジア太平洋大学)を含め、全10大学、総勢260名が参加しました！「切磋琢磨」をテーマに議論・交流し、相互に刺激を得る、学び合うことの大切さを改めて感じる機会となりました。切磋琢磨し生まれた絆が築くCC/CClubの今後の活動に期待です♪(明治学院大学CC・中村亜絵美、青山学院大学CClub・生山絵美子)





**タイの家族と一緒に  
家を建てる8日間  
With 地球の歩き方**



**今**夏、タイ、第二の都市  
チェンマイで住居建築

活動を行います。貧困や災害で苦しむ現地住民のために、その家族と一緒に協力し合って家を建てていきます。ワークは安全基準をクリアした建築現場でのみ行いますので、建築経験やスキルは一切不要です！！

ワークの他にも孤児院、幼稚園または小学校を訪問し、現地の子どもたちとの交流する他、ハビタットが支援するアジア最大級のコミュニティの訪問見学、チェンマイ市内観光、最終日にはお別れパーティーなども予定しています。

あなたも国を越えて現地の人たちと共に汗を流し、異文化に触れ合いながら、世界の現状を学ぶGVに参加してみませんか？

**出発日程：第一陣 8月24日(火) / 第二陣 9月7日(火)**

\*詳しくはホームページをご覧ください！(事務局)

**寄付・助成金リスト (2010.4.1-6.30)**

みなさまのご支援は「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。ありがとうございました。(敬称略・順不同)

4/5	関西JCC	5,678
4/6	Spring Love (イベント収益)	115,605
4/8	谷山 雄二郎	31,000
4/14	American School in Japan	31,986
4/19	Seisen International School	3,850
5/18	関西学院大学 (上ヶ原バテット)	40,356
6/8	関西学院大学 (上ヶ原バテット)	30,143
6/11	MEITO CHRIST INTERNATIONAL CHURCH	11,000
6/14	関西JCC	5,284
6/25	石井多喜子	2,677
6/25	京都産業大学 (habitarius)	33,215
6/28	Ariana Jauregui	73,400
6/29	ナカオリユウイテ	10,000

**ネパール・エベレストの  
麓で50軒を建てよう！  
EVEREST BUILD**

**1**0月3(日)～8日(金)、ネパール第3の都市ポカラ市郊外の村で、世界各国から集まる500名以上のボランティアとともに50軒の家を建てます。

ネパールでは、3人に1人が貧困状態にあるといわれています。ハビタットでは、1997年にネパールでの活動を開始し、昨年7月には記念すべき5,000軒目の完成に至りました。今後さらに活動を広げ、2012年までにさらに5,000世帯に対する支援を行う予定です。

ブッダ生誕の地とされ、2600年の歴史を持つネパール。本プロジェクト「エベレスト・ビルド」は、ネパールの大地を見守り続けてきた世界最高峰エベレストを望みながら、新たな5,000軒へのスタートを切る一般参加型スペシャル・プログラムです。※一部参加も可！詳しくはホームページをご覧ください！(事務局)



**ハビビと集会・次回開催ご案内**

■日時：8月4日(水) 19:30-

■場所：Ben's Café(高田馬場)

■トピック：モンゴル「Blue Sky Build」報告、中田宏パネルディスカッション報告、ネパール「EVEREST BUILD」案内、Oakwoodイベント案内他

**編集後記**

ハビタット・ジャパンでは、7月に新年度を迎えました。昨年度は、世界経済の落ち込みやタイでの政変など逆風もありましたが、皆様から温かいご支援とご協力により、46チーム、728名のボランティアの皆様により、世界各地での支援活動に参加頂きました。今夏もすでに、23チーム、約300名が参加を予定しています。また国内では、参加型の建築プロジェクトやイベントを一層充実させ、より多くの方々と大きな輪を広げていきたいと考えています。今年度も引き続き、皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。(事務局)



ハビタット・フォー・ヒューマンティ・ジャパンは住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく100カ国で35万軒余の住宅建築支援を行ってきました。そして現在、世界中で21分に1軒のペースで住宅を建てています。

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-17-3

ベル・パークシティ西新宿217

Tel: 03-6304-2543 / Fax: 03-6304-2544

URL: www.habitatjp.org / Email: info@habitatjp.org

発行人：芹澤充子

編集人：山崎顕太郎、高橋範子、山本真太郎



HFH Japan  
ベルパークシティ西新宿217号  
※ドミノピザ(1F)が入っている白い建物の2Fです。